

砂防指定地内制限行為（設備占用）許可申請書（規則様式第 1 号）
急傾斜地崩壊危険区域内制限行為許可申請書（規則様式第 1 号）

許可申請書の作り方

次の書類を A 4 判の大きさに折り、左綴じにして作成してください。
図書の作成にあたっては、「砂防指定地内作業技術審査指針」P16, 17 を参照してください。
詳細については当所管理第 2 課または地元市町担当課へ問い合わせてください。

○ 許可申請書

- 申請書下端の空白部に連絡先を記入する
- 申請者は行為能力を有する個人または法人とする
法人の場合は法人名とともに代表者名を記載する
- 行為（占用）の場所が広大な場合には代表的な地番を記載し、「他○筆」とする
- 河川（溪流）沿いの場合は、左岸と右岸それぞれ別に「○○番(上流端)から××番（下流端)まで」と記載する
- 地目、面積（占用面積）は行為の区域の地目及び面積計算書に基づいた行為区域（占用）の面積のみを記入する
- 砂防設備占用における上空占用の場合、占用区域はあくまで砂防設備の上空であるため注意すること
- 行為（占用）目的は具体的かつ簡素に記載する（例）一戸建て住宅の新築等
- 行為（占用）期間は、許可の日から制限行為の場合は 3 年以内、砂防設備占用の場合は 5 年以内

1 委任状

2 位置図

- 当該行為地を縮尺 1/10, 000～1/50, 000 の地形図に赤着色（住宅地図可）
- 公道に隣接していない場合は、公道から申請場所までの道順を記入

3 公図写し

- 当該行為区域及びその隣接土地のすべてを含む広い範囲が表示された法務局発行の地図（公図）証明書に当該行為区域を赤着色
- 公図を登記情報提供サービスにより取得した場合は、取得者の職氏名を記入のうえ押印又は氏名を自署

4 実測平面図（現況・計画）

- 縮尺 1/500～1/2, 000 の現況を表示するのに適当なもので、当該行為区域及び周辺地域の地形が判定できるものとし、切土、盛土、構造物を色分けしたうえ、当該行為区域及び砂防指定地区域を明示（現況・計画）
- 雨水排水計画を明示（流水の方向、勾配等を記入）
- 当該図面の測量年月日及び測量者（作成者）職氏名を記載（以下の図面も同様）
- 現況平面図と計画平面図は同一縮尺とすること

5 縦横断面図（現況・計画）

- 縮尺 1/100～1/300 とし、当該行為区域を明確に記入
- 雨水排水計画を明示（流水の方向、勾配及び水路断面を記入）
- 隣接地（河川含む）との関係がわかるものとする
- 河川勾配は 1/n で、道路勾配は n%で記入する

6 求積図

- 縮尺 1/100～1/500 とし、砂防指定地内の行為面積を三斜法等により求積

7 工作物の構造図

8 現況カラー写真

- 行為区域の状況を明確に確認することができる全景及び細部の写真とし、写真撮影日を記入するとともに、写真撮影位置を実測平面図（現況）に記入

9 土地に関する権原証明書等

- 申請地及び隣接地の土地所有者一覧表（地番・地目・地積・所有者住所・氏名）
- 自己の所有地で行為をするときは、当該土地に係る登記簿謄本
- 当該土地が、他人の所有に属する場合は、当該土地に係る登記簿謄本及び土地所有者の同意書の写し（名義人と相違がある場合は、双方のつながりが分かる書類を添付）

10 他法令の許認可書の写し

- 関係他法令を列記し、それぞれの審査状況（提出日、許認可日、許可条件等）を明記
- 上記の許認可書等又は申請書（受付印を押印したもの）の写しを添付

11 その他必要に応じて、以下の書類の提出を求められます。

- ① 利害関係人の承諾書
当該土地における行為によって、治水上砂防の上で直接影響を受けると予想される利害関係者の承諾書
- ② 損害賠償責任負担請書
- ③ 排水計画平面図（流水の方向、勾配及び水路断面を記入）
- ④ 排水計画計算書（流下能力計算書）
- ⑤ 防災計画図（平面図、縦横断面図、詳細構造図、段切位置図等）
- ⑥ 防災計画書（切土量、盛土量、残土量、残土処分地を記入。また、降雨時の土砂流出に備えた常備資材も具体的に記入）
- ⑦ 構造物の安定計算書
- ⑧ 工程表
- ⑨ その他必要が生じた書類（基礎伏図、地質調査報告書等）

備 考

- 1 正本 1 部、副本 2 部の計 3 部を作成のうえ市町へ提出した後、市町の意見書を添えて正本 1 部、副本 1 部を当所へ提出してください。
- 2 宝塚土木事務所受付後から 3 週間程度、審査に要します。
- 3 行為に着手、又は完了したときは、砂防指定地内制限行為着手届等を提出してください。
- 4 申請者が国または地方公共団体の場合は、砂防については「許可申請」ではなく「協議」であるため「砂防指定地内行為（設備占用）協議書」の表現になります。

技術審査に必要な申請添付図書作成要領

図書の種類	縮 尺	記入すべき事項	摘 要
位 置 図	1／10,000 程度	行為位置、行為区域 近傍の河川、道路、鉄道の名称 もよりの公道から申請地までの道順	
現況平面図	1／500 程度	行為区域 ----- 赤色 (砂防指定区域 ----- 橙色) (申請者取得区域 ----- 黄色) (河川敷 ----- 水色) (道路敷 ----- 茶色)	
計画平面図	1／500 程度	○行為区域及び周辺の地形が判定できるとともに、隣接地との関係のわかる図面とすること。 ○切土・盛土・構造物・建築物等を色分けし計画を明確に記入すること。 (行為区域線、砂防指定地の範囲を明記すること。) ※現況・計画平面図とも同一縮尺とすること。	
切 盛 土 図	1／500 程度	切土部 ----- 黄色 盛土部 ----- 緑色	
縦 断 面 図 横 断 面 図	1／100 ～ 1／300	○縦・横とも同一の縮尺とすること。 ○現況地盤線・計画地盤線など、計画を明確に記入すること。 ○行為区域線、指定地の範囲を記入すること。 ※河川・道路等の縦断面図面については、 縮尺：縦 (1／100～1／200) 横 (平面図と同一縮尺) 勾配：河川勾配は 1／n で記入すること。 道路勾配は n % で記入すること。	寸法を記入のこと
谷筋縦断面図		行為区域内の谷筋に沿って作成すること。 現況地盤線と計画地盤線 構造物 防災施設	寸法を記入のこと
雨水排水計画図 流 域 図 平 面 図	1／1,000～ 1／10,000 1／500 ～ 1／2,000	} 流域区分、流水の方向、流域面積、排水施設、 行為区域 H. W. L：勾配は 1／n で記入すること。 H. W. L	寸法を記入のこと 工事中仮排水が必要な場合には別途作成すること
縦 断 図 横 断 図	} 1／50 ～ 1／100		

図書の種類	縮 尺	記入すべき事項	摘 要
構造物の詳細図	1／50 ～ 1／200	構造物の形状、寸法、材質等 現況地盤線と計画地盤線 基礎地盤調査結果	
防災計画図		工事中に設置する仮設沈砂地、仮設側溝 工程表に基づき各工事段階毎に作成すること。 平面図、縦横断図、詳細構造図、段切位置図	平面図に各防災施設の位置、形状、寸法、名称を記入のこと。
防災計画書		行為中・行為後の防災対策を具体的に記述すること。	
各種計算書		水理計算書 構造物の安定計算書 (必要に応じ) 斜面安定計算書	
土量計算書		切土量、盛土量、残土処分量の算出	
工事仕様書			
工 程 表		防災面については、特に項目分けして詳細に記入すること。	
関係他法令一 覧 表		関係する他法令を列記し、その各々について審査状況(提出日、許認可日、許可条件等)を明記すること。 審査が済んだものについては、許認可書の写しを添付すること。	
計画概要書		計画の目的、概要を簡潔に記すこと。	
カラー写真		○全景、局部の写真で現況の状態、砂防指定地との関係がわかるもの。 ○局部写真は草刈りを行い、ポールを当てて形状寸法を明確にすること。 ○溪流写真は流水の方向を記入すること。 ○撮影位置、方向を平面図に明示のこと。	

※注 本表は技術審査に必要な図書について記したものであり、許可申請に当たっては、「管理事務取扱要領のⅢ 砂防指定地内制限行為の手続」にしたがって必要図書を整備すること。